

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

知的障害特別支援学級に在籍する男子は、中等度知的障害がありWISC-IV全検査IQ54である。学習においては、小学校低学年程度の内容であれば理解できる。日常生活では、会話はほぼ自由に話すことができるが、記憶が錯綜して、詳しく話せないことがある。

本生徒は、将来の夢がはっきりとしており、夢の実現に向けて勉強ができるようになりたいという希望がある。その願いに沿った学習ができるように、生徒の学力に応じて、漢字のルビや、アルファベットを歌やジェスチャーを交えて覚えられるように、合理的配慮を行っている。

- | | | |
|------------|------------|------------------------|
| 1 対象生徒の障害種 | 知的障害 | 自閉スペクトラム症 |
| 2 障害の程度 | 非該当(知的障害) | ※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か |
| 3 在籍状況 | 中学校・特別支援学級 | |
| 4 学年 | 中2 | |
| 5 対象生徒の実態 | | |

中等度知的障害・自閉スペクトラム症 療育手帳B1

WISC-IV(2018.7.5)全検査IQ 54

S-M社会生活能力検査(13歳7ヶ月時)社会生活年齢【社会生活指数】7歳4ヶ月【53.9】

Aクリニック、B病院で定期的にカウンセリングや検査を受けている。療育施設に毎週通っている。

日常生活

- ・給食当番や日直をよく忘れる。
- ・忘れものをしたとき、教師や友達から忠告されると、耳を塞いで固まってしまう。

学習の状況

- ・漢字と算数は、小学2年生程度の内容を確認しながら進めている。
- ・文章の意味理解が難しく、ひらがなで書かれていても題意が読み取れない。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

生徒と保護者は、将来トラックの運転手や重機を扱える仕事に就きたいため、中学校で学力をつけ、特別支援学校で職業訓練を中心に学習するというはっきりした希望がある。

学習や支援の方法は、療育施設と連携して適切な指導内容を模索しながら進めている。

保護者には、個別的教育支援計画と個別の指導計画に同意をいただいている。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎④ 教材の確保

今年度より各学校の特別支援学級用にタブレット型端末を導入した。視覚効果などから意欲的に学習に取り組むことができています。本生徒においても、アプリケーションや画像、動画を取り入れながら学習することにより、目で見て知識につながるようにしている。

基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導

本生徒が在籍する知的障害特別支援学級は、他に2名が在籍しており、それぞれの特性に応じた指導が可能である。本生徒の場合は、1日のスケジュールを詳細に黒板に示すことにより、安心して過ごすことができる。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

教科学習では、進路を視野において、小学4年生までの内容理解を目指している。
国語では、興味のある文章を提示し、自分の気持ちを表すことができるようシンプルな質問をしている。
数学では、小学2年生の計算や文章題を確実にできるようにするため、簡単な問題をできるだけ多く解くことで、成功体験を積み重ねる。

生活面では、提出物や準備物、時間を守るといった基本的な学校生活を大切にすることを丁寧に指導し、社会での適応力を養っている。また、身なりや清潔・整理整頓に気を配り、人により良い印象を与えること大切さを日々指導している。
生徒のレベルに応じた学習をしながら、将来を見据えてのレベルアップを目指している。

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

本生徒は、困ったときや怒られたときに、固まってしまう。また、感情の起伏が激しいので自分をコントロールできないときがある。
就業を目標としているので、これらも克服していく必要があり、ソーシャルスキルトレーニングを行っている。
作業学習では熱心に粘り強く取り組むことができていたため、自主的に取り組んでいることに対して褒めることで喜びとやる気を持たせている。
部活動を通じて、心身を鍛え、くじけない心と体をつくる。

9 成果と課題

中学校に入学してから、作業学習が得意で、粘り強く取り組むことができるという長所がはっきりしてきた。本生徒もそれを自覚し、将来の夢をもつことができています。保護者にも同意を得たうえで、目標に向けた学習内容を設定している。
教科学習において、苦手意識から粘り強く取り組むことができていないことが課題である。